

＜コラム＞文章;協同組合Masters顧問 霜田 稔(Mastersベトナム事業部ホーチミン駐在コーディネーター)

『けいはんな学研とサイエンスシティ構想』

こちらにも雨季に入りつつあり、雨季のベトナムは意外と涼しい。日中の直射光はまさに南国ですが、木陰は涼しく、扇風機でもあればクーラーはいらない感じです。さて今日は6月1日、昨日高原リゾート都市タラットからリクアイングバス8時間で、ベトナムの地方を見てきました。ホーチミンの農村と比べても、学校などはすぶる近代的な建物になっており、また農家も最低は脱し、藁葺きからコンクリートへ転じ、モーターバイクが普及し、豊かになってきている印象でした。ただ地方には日本と違って工場などの進出までは至っていない状態であると思います。日本はかなりの田舎まで工場が立地し、農村工業化が深く浸透したように思います。さて話は変わります。昨日の真夜中、夢を見ました。それは日本でできなかった学研都市のベトナム版という夢でしたが、考えても見ても私の夢ですが、されど多くの関係者の夢であることも論理的納得のいくことだと納得しました。それを説明したいと思います。

私のベトナムでの体験からすると、日本のアジア進出は、個別企業、個別案件でのビジネスが多いと思いますが、なかなか事業相互が連鎖していく仕組みにかけています。高層のエレベーターやウォッシュレットは日本製が多く、またはるか郊外に建設している工業団地には多くの日本の製造企業が進出を始めています。ホーチミンのこれからの開発拠点地区にサイゴン川を渡る地下道路、巨大な吊り橋道路、地下鉄工事などほとんど日本のODA資金で建設し、大林、住友商事などが受注しているわけですが、この地区に開発されつつある何十とある超高層ビルや高層マンション、そこには一つとして日本ディベロッパーもセネコンも行われていません。我が社が唯一です。ODAなどで巨大な貢献をしながら、連鎖的に事業ができていないのはなぜでしょうか。結局日本政府の保証のある事業を請負い、自ら主体的に事業全体をまとめて行くディベロッパー、総合事業を組み立てていくプランナーが出ていないということではないかと思えます。ホーチミンの2区9区、そしてドンナイ省はこれからの開発拠点です。そこで開発の主導権を持ち、多くの企業を組織し、たくさん仕事をベトナムや日本にもたらすことが可能です。これがこちらの側の都合です。さて私も計画過程に深く関わったけいはんな(関西)学研だけではないかと思えますが、けいはんなの行く末はいかでしょうか。先日も住宅都市整備公団の学研局が閉鎖されるにあたって、関西学研のこれまでの歩みと公団の役割はいかに評価するかということについてコメントを求められました。荒巻元知事、立石理事長、後藤邦夫先生、府立大学宗田先生、立命館の仲上先生、村橋先生、伊藤健一科学技術センター主任、大和田京都府都市計画課長などと私も含めて意見が提案されてきましたが、確信を持った展望を提起している人はいませんでした。私も郊外都市市街地の縮小の時代に、関西学研を量的に活性化することは難しいと考えていますが、皆さんはどう考えますか?それでも研究や知的文化活動を縮小すべきではないかと思えます。それは関西学研の最も重要な資源が何かと問われれば、実は施設や機構ではないのだと思えます。それは文化から学術研究、技術開発、企業化そして都市形成そのものも創造的取り組みを産官学地のたくさんの方が思いを持って取り組んだ挑戦の精神史、そのものではないかと私は思っています。現実化されたことはそのほんの一部で、隠れた思いのほうはるか大きく、そしてこの思いこそは世界に冠たる精神資産であると考えます。そう考えれば、関西学研の活性化なり、今後予定している第4次ステージプランの最大のテーマは、この精神史を顕在化させ、後世の世代に伝え引き継ぐことではないかと思えます。この精神が消えないためには、みんなで取り組む大きなフィールドを現段階で用意することです。そのフィールドは低迷するけいはんな学研ではなく、発展するアジアのサイエンスシティではないかと思えます。そこがけいはんな学研の次の活動の場として待っていると私は勝手に思っています。その一つがホーチミンのサイエンスシティ構想であると私は思っています。ここにたくさんの方の学研都市関係者や関西企業を引き連れて、ホーチミンの未来を開くサイエンスシティ構想(サイエンスだけでなく文化やライフスタイル、起業化、技術支援、大学の学問強化、中核病院構築などを含む)を提起し、その中で高等研も推進機構も役割を見出し、また近鉄やセスイ、タイワハウス、ハイタッチ組合までもこの巨大な開発事業の中での仕事を探求し分担していくこと、それがサイエンスシティなり創造的都市を作ることになり、かつ創造力を鍛え、次世代に残せるノウハウを蓄積することになるのではないのでしょうか。日本の低迷し縮小する都市化過程に多くの人たちを動員してゆく(経済的、政治的基盤は今はないと考えざるを得ないと思えますし、当面創造活動を継続発展させことに力点を置いて、孫やひ孫の世代で再度けいはんな学研を考えたらどうでしょうか?これは発想の大きな飛躍をしているかもしれませんが、けいはんな学研の原点に立ち戻るなら、京阪奈地域での都市形成に無理してこだわる必要はないと思えます。この地域の人々の行動こそが創造的であれば良いと考えて見てはいかでしょうか?それが第2けいはんなとなり、さらには将来は遠く、アフリカ学研都市ぐらいいまに広がっていくと思えます。そして孫かひ孫の時代には、けいはんなに戻って来ることができればと考えます。高等研の初期理念、エネルギー研究や文理融合の世界をリードするコア機構想、大学と民間企業の教育における融合を目指した連合大学院構想、ライフスタイル創造を目指したハイタッチ研、開発負担金まではいきませんでした。ディベロッパーの都市開発利潤の知的活動への還元方策などのグランドユニバーシティ構想、これまで考えてきたことは、けいはんなでも今までに出来ていませんが、これはこれから都市化に直面するアジアやアフリカの共通の課題です。どこも完成はしていません。

さて私が関わっているホーチミン市の東部2区、9区及びドンナイ省にまたがる現地の動向ですが、将来の新空港建設予定地、大規模な内陸工業団地、そしてシンガポールの不動産会社による86階建ての超高層、韓国のロッテの開発計画、ベトナム政府やホーチミン市の庁舎総合化、ファイナンスセンターの動きなどがありますが、日本は地下鉄工事のODA支援など大変大事な仕事をしていますが、スケールの大きな取り組みには至っていません。問題は我々日本側の事業構築、基本コンセプト、戦略、ファイナンスの仕組みまで持った積極的な提案を構築し、こちらの政府や市行政に働きかけ、インシアティブを取ることでです。そうすれば日本の企業にたくさん仕事をやり、ビジネスチャンス提起できるわけです。その効果は莫大です。その上で行政などの基本協定を構築し、あと出来ることから事業化を進めることにすればよいわけです。事業内容は後から決まるわけですから主体的態度が最も大事な点であると思えます。日本のように成熟した社会ではありませんので、ソフトな制作や仕組みなどは、先進国からのサジェションが必要です。ホーチミン東部に小さくても30万から50万人のサイエンスシティを構想提起してはどうかと考えます。これこそ関西学研などに携わってきた産官学の多くのメンバーの仕事ではないかと思えますし、またMasters Vietnamがその一端の役割を果たせるなら歴史的意味を持つと私は夢想しています。こんな動きをこちらと関西で連動できればと勝手に思っています。こんなことがあれば、あの世に行かれた関西学研に関わった数多くの企業、行政、学者、コンサルタントなどの関係者の思いを実現することになるのではないかと思えます。こんな思いをホーチミン交通大学の学生に提起してみようと思えます。

＜月例会発表商材＞ 6月18日(水)15時～ ユーイング(株)事務所にて開催

1. 自家発電機 (株)東京電機 甘佐勳/協同組合Masters 米川友則
2. 涼感ワーククーラー (株)日本緑十字社 岩堀輝行/協同組合Masters 米川友則
- 3-1. DC扇風機 (株)ユーイング 古谷繁/協同組合Masters 米川友則
- 3-2. 家庭用大型・小型水耕栽培器 (株)ユーイング 古谷繁/協同組合Masters 米川友則

【凡例】  
①商品名  
②対象者  
③従来品との違い  
④アピールポイント

1. 自家発電機 (株)東京電機 甘佐勳/協同組合Masters 米川友則(40分)

- ①防災用・一般非常用 ディーゼル自家発電装置
- ②病院、スーパー、オフィスビル、工場、物流センター、ホテル、老人ホーム等のさまざまな施設
- ③従来と比べ小型化
- ④・5KVA～2000KVAまでの各機種をラインナップ。
  - ・軽量・小形・キュービカルタイプ(狭い据付面積で設置できます)
  - ・専用発電機室が不要(機械室の片隅や屋上などに手軽に設置できます)
  - ・すぐれたモーター始動性能(負荷変動に対する即応性にすぐれ、大容量のモーター始動に適しています)
  - ・環境に優しいエコモード(排出ガスゼロ状態で自動保守運転が行えます)
  - ・低温時も安心(オプションにてマイナス15℃、マイナス30℃まで対応致します)
  - ・マイコン制御(運転・故障履歴の確認ができます)



2. 涼感ワーククーラー (株)日本緑十字社 岩堀輝行/協同組合Masters 米川友則(30分)

- ①涼感ワーククーラー【ブルー、サックス、ライトグレー】
- ②夏場の作業をされる方。節電対策の為、エアコンの温度調節をしている事務所の従業員の方。
- ③オリジナルホルダーリングの採用により、安全性において非常に優れた商品(機械への巻き込まれ事故防止等)です。
- ④◇吸水ポリマーで保水! 気化熱作用で冷却!
  - ◇一日快適。一日中快適にご使用いただく為、本体に“透湿防止素材”を採用致しました。シャツや作業着等の襟元が濡れません。
  - ◇年中清潔。防水生地採用により、石鹸での手洗いが可能です。シーズンを通して清潔にご使用いただけます。



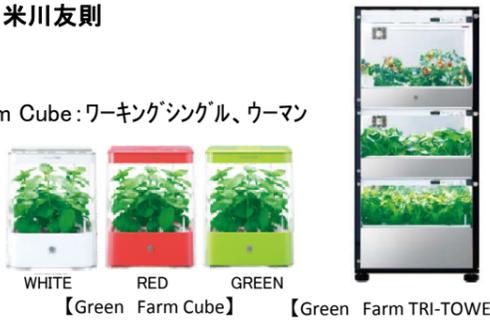

3-1. DC扇風機 (株)ユーイング 古谷繁/協同組合Masters 米川友則(合計 40分)

- ①DC扇風機【Fando】UF-DHR30G(W)、UF-DHR30G(R)、UF-DHR30G(K)
- ②夏場・冬場の電気代を節約したい、一般のご家庭
- ③◇新型7枚羽根を搭載。
  - 日本電産様と共同開発した、新型7枚羽根を採用することで、従来の羽根と比較し、風速を約20%を抑えながらも、風量を約20%増加させることを実現。風速を抑えた優しい風でも風量が豊かで、しっかり涼しい風を作ることが出来ます。
  - ◇選べる上下首振り角度
    - 昨年好評であった上下自動首振りに、下向き15°～上向き90°までの広範囲と、上向き30°までの首振り範囲の2種類から選択可能。
- ④◇透明感のある光沢と上品なパールやメタリックが美しい「UV塗装」の実施。
  - 昨年好評を得た、限定カラーである「ざくろレッド」を定番化し、新たに「ピュアブラック」を付け加えた3色展開。摩耗に強く、高い耐久性を備えた高品質で美しい仕上がりの「UV塗装」を引き続き採用。




3-2. 家庭用大型・小型水耕栽培器 (株)ユーイング 古谷繁/協同組合Masters 米川友則

- ①家庭用大型水耕栽培器【Green Farm TRI-TOWER】
- 家庭用小型水耕栽培器【Green Farm Cube】
- ②Green Farm TRI-TOWER: シニア世帯、小さいお子様のいるご家庭/Green Farm Cube: ワーキングシングル、ウーマン
- ③◇昨年ご好評頂いた家庭用水耕栽培器【Green Farm】に姉妹品が登場。
  - より手軽に楽しむことが出来る小型タイプ【Green Farm Cube】と、より本格的に楽しむことが出来る【Green Farm TRI-TOWER】。シモンパジルとサンチュが新しく追加され、楽しめる野菜は20種類以上。
  - ④◇3種類の野菜を同時に育てる事が可能。【Green Farm TRI-TOWER】栽培室ごとに操作できる、独立した構造になっているので、レタスとペーパーリーフなど、成長のスピードが違う野菜でも効率よく育てることが出来ます。最上段の栽培室は、栽培高さ27cmの広々としたスペースを確保。背の高くなる鈴つこももしっかり育てる事が可能。
  - ◇四方をアクリルで囲んだ半密閉構造採用。【Green Farm Cube】部屋のどこに置いて、野菜の成長を見る事が出来、虫やホコリなどの進入を防ぐ、半密閉構造。



※独自の技術・商材に興味や情報をお持ちの方、コラボレーションにご興味のある方はお気軽にご連絡下さい。連絡先: TEL06-6110-8050 E-mail: yonekawa@masters.coop 協同組合Masters 担当: 演出、米川